

カトリック香里教会 年間第十九主日 2021年8月8日

— 列王記上 19章・4-8、エフェソ4章 30-5章2、ヨハネによる福音6章 41-51 —

〔そのとき、〕ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。-ヨハネによる福音-

聖霊に助けられて

ルルドで奇跡を目の当たりにした科学者アレクシス・カレルは、回心後、「祈りと巡礼の旅」という自著の本の中で「知識で神を知ろうとする者に、神は遠ざかり、心に愛のある人には、神自ら近づかれる」と告白しています。また、現代の啓示を「聖書で十分。必要ない」と受け付けない人の心をイエスご自身が指摘しておられます。“彼らがなぜ私の啓示を拒否するのか言おう。それは彼らの中にわたしの聖霊が働いていないからだ”と。

今日の福音でイエスが「私は天から降ってきたパンである」と言われた言葉につまずいたユダヤ人になされた言葉「私をお遣わしになった父が引き寄せて下さらなければ、誰も私のもとに来ることは出来ない。」「彼らは皆神によって教えられる。」は、神を認めるのは、聖霊の働きであることを示した諭しでした。

かつてご自分が創造された世界の中に来られる決意をなさったとき、イエスは神としてではなく、被造物の姿で来られた。それは、ご自分を神だと知ってもらうためではなく、目的は人々が父の愛を知って、父の愛する子となるためであったことがイエスの生き方から見えてきます。イエスがなさった徴の本来の目的は「神の愛と超越性」の啓示にあり、それによって人々が神を信じて、父の子の命を得ることだったからです。

しるしの中で最大の徴は、イエスご自身でした。すなわち、神の愛を十字架の死によって最も完全に証し、復活の世界を私たちに示してくださった出来事です。ところが、政治的夢の実現を期待していたユダヤ人には、イエスは、彼らの腹を満たしてくれる徴でしか見えなかったようです。

人間は、自分と同じ被造物が神であるなど、とんでもないと思うのがむしろ正しくて、それゆえ人々は「これはヨセフの息子ではないか」とつぶやくしかなかったのでしょうか。しかし彼らの心に、聖霊が働く余地がなかったという一点をイエスは見過ごしません。父の聖霊が引き寄せてくださらなければ、誰もイエスのもとに来ることは出来ないのです！ 心にイエスが徴となるために必要なのは、悔い改めを勧めるイエスの教えに心を向けることです。そうすれば自分たちに都合の良い他の徴を要求せずに、“時のしるし”を見分けられ、それがやがて復活のキリストを受け入れる準備となるでしょう。信仰者とは、救い主イエスに会いたいと願いながら、信仰の心によって回心した人々です。イエスを食べた人は、聖霊に助けられてイエスのようになるのです。父を愛し、人を愛する人に。

